

令和7年度 教科研修会 I に向けた授業の構想

技術・家庭科（家庭分野）

1 技術・家庭科（家庭分野）の研究テーマ

家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定する力を高める学習の在り方

2 家庭分野として育成を目指す資質・能力の受け止め（研究テーマに示す力が高まっている生徒の具体の姿）

- ・「自分」の制服の手入れの仕方について、襟と袖の黒い汚れを落とす方法といった課題を設定している姿（1学年、衣生活）
 - ・「家族」（モデル家族）の住空間の整え方について、幼児や高齢者にとって安全で住みやすい段差の少ない家といった課題を設定している姿（2学年、住生活）
 - ・「地域」の幼児との関わりについて、5歳児の〇〇さんの発達や興味に応じた関わり方といった課題を設定している姿（3学年、家族・家庭生活）
- ※想定される生徒が設定する課題例

3 題材名・学年 「磯野家建て替えプラン」・2年

4 題材の概要（全12時間扱い 本時は第5時）

題材の学習問題

家族にとって住みやすい住居にするには、どのようにすればよいのだろうか。

題材展開

時間	学習内容
第1時 ～ 第2時	◆ <u>題材の学習の見通しをもつ</u> ・自分と家族の関わりや中学生の自分が住居に求めていることをそれぞれ思い返した後、磯野家のよさと課題について話し合う。 【題材の学習問題】家族にとって住みやすい住居にするには、どのようにすればよいのだろうか。
第3時 ～ 第5時 (本時)	◆ <u>今の磯野家の住みづらさを基に、建て替えプランを作成する</u> 【学習問題】磯野家が住みやすい住居にするには、どのようにすればよいのだろうか。 ・磯野家の間取り図や内観動画を視聴し、解決したいポイントを明確にして、マイホームクラウドを使用して建て替えプランを作成する。 ・グループで建て替えプランを共有し、モデル家族の住居のどこに不便さを感じて解決しようとしたのか出し合い、各自の課題を設定する。
第6時 ～ 第11時	◆ <u>高齢者と幼児の身体的特徴を基に、建て替えプランを修正する</u> 【学習問題】磯野家みんなにとって、将来にわたって住みやすい住居にするには、どのようにすればよいのだろうか。 ・高齢者疑似体験を行い、高齢者の身体的特徴に合わせた住居の工夫について話し合う。 ・幼児疑似体験を行い、家庭内での事故を防ぐ方法について話し合う。 ・疑似体験の経験について振り返り、更新した課題を基に建て替えプランを修正する。
第12時	◆ <u>題材全体を振り返り、題材のまとめをする</u> ・再度グループで建て替えプランを見合い、題材の学習問題に対する自分の考えや今後の自分の生活に活かそうなことをまとめる。

技術・家庭科（家庭分野）学習指導案

令和7年5月14日（水）5校時 家庭科室

授業学級 2年E組（40名）

授業者 六浦 悠希

1 題材名 「磯野家建て替えプラン」

2 主眼 ※【 】内は、中学校学習指導要領との関連を指している
磯野家が住みやすい住居にするにはどうすればよいのかを考える場面で、今の磯野家の住居に感じた不便さに着目して、建て替えプランのよさと改善点について意見交換することを通して、将来にわたって住みやすい住居にするための課題を更新することができる。 【B(6)イ】

3 題材の学習問題：家族にとって住みやすい住居するには、どうすればよいのだろうか。

4 本時の位置（全12時間中 第5時）

前時：磯野家の住居の不便さや改善点を基に、マイホームクラウドで建て替えプランを作成した。

次時：高齢者体験と幼児体験を行い、高齢者や幼児の身体的特徴を理解する。

5 展開

段階	活動	予想される生徒の反応	教師の指導・助言 評価	時間
導入	1 学習問題を確認し、学習課題を据える。	学習問題：磯野家が住みやすい住居にするには、どうすればよいのだろうか。 ア 磯野家にはトイレが一つしかないことや、個人生活の空間が殆どなく誰かと共用の空間しかないことを不便に感じた。住みやすくなった場所もあるが、各部屋の配置について悩んだ。まだ、十分とは言えないので、友のプランのよさを取り入れて、自分のプランをよりよくしたい。	・前時を振り返り、今の磯野家の住居のどこに住みづらさを感じてプランを作成したのか、まだ不便に感じることはないか問い掛ける。 ・アのような反応から、学習課題を据える。	5分
		学習課題：今の磯野家の住居に感じた不便さに着目して、建て替えプランのよさと改善点について友と意見交換しよう。		
展開	2 班で互いの建て替えプランのよさと改善点について意見交換をする。	イ 磯野家は7人家族なのにトイレが一つしかなく、和式トイレで使いにくいことを不便に感じ、洋式トイレを二つ配置した。また、磯野家全員の個人生活の空間を確保するために、2階に個人部屋を作った。 ウ Aさんの意見から、トイレを増やしたことで混み合うことがなく快適に過ごせそうだが、トイレを玄関近くの場所や、数十年後より高齢になりトイレが近くなる波平やフネの部屋の近くに配置するとより快適に過ごせるのかもしれない。	・発表を聞く際には、それぞれの建て替えプランのよさと改善点を付箋に書き出しながら意見交換を進めることを確認する。 ・改善点が見付からない班に対しては、付箋に書かれている内容を磯野家の登場人物ごとに分類し、不便さを抱えたままの登場人物がいらないか確認するように促す。	20分
	3 時間軸を広げた観点で建て替えプランを見直し、全体で共有する。	エ 私のプランでは、磯野家それぞれの個人部屋が2階にしかないので、20～30年後、波平やフネが歳をとった時に階段の昇り降りが大変かもしれない。 オ Bさんのプランでは、トイレの数を二つに増やすことは私と同じであったが、トイレの配置が異なっていた。夜トイレに行く際に転倒してしまい、怪我をすることがないように、1階のマスオ、サザエ、タラちゃんの寝室と波平、フネの寝室の近くに一つずつトイレを配置していた。幼い家族や高齢な家族の安全面にも配慮したプランにしたほうが磯野家みんなにとって住みやすい住居になるのかもしれない。	・磯野家の今の生活だけでなく、20～30年後の生活を見通して考えているウのような考えを全体で共有し、時間軸を広げた観点でプランを見直す時間を設ける。 ・それぞれの考えを全体で共有する場を設ける。 ・エやオのような考えの生徒を指名し、幼児や高齢者の視点や磯野家の将来の生活を見通して建て替えプランを考えることの必要性を確認する。	13分
終末	4 磯野家の住居を住みやすくするための課題を更新する。	カ 私は、もっと磯野家みんながいつまでも住みやすい家にしていきたい。例えば、20～30年後に歳をとった波平とフネや、幼いタラちゃんが安全に生活できるよう、3人の個人部屋を1階に移動したり、3人が使用する頻度の高い部屋の配置を変更したりする。他にも、幼い家族や高齢な家族にとって住みづらい場所がないか考えていきたい。	・新たに気付いた住居を住みやすくするための課題を記述するように促し、カのような考えを全体で共有する。 将来にわたって住みやすい住居にするための課題を更新している。（学習カード）	12分